

審判上の注意

1. 本大会は、平成24年度公益財団法人日本バドミントン協会競技規則、同大会運営規程並びに同公認審判員規程により行います。
2. 試合開始の場内放送後、いかなる理由があっても、10分経過して当該選手がコートに入らない場合は棄権とみなします。その最終判断はレフェリーが行います。
3. 連続試合の場合は、原則として試合終了後15分の間隔を置き、次の試合を始めます。
4. 全ての計時は、レフェリー若しくは主審によってなされます。
5. シャトルは試打してありますので、選択は認めません。シャトルの交換については、主審の許可を得てください。
6. 試合中の水分補給については、必ず主審の許可を得てください。容器については蓋付きのものとし、床面にこぼさないように注意してください。飲料容器は、コート脇のカゴに入れるようにしてください。
7. コーチングシート（コーチ席）は、所定の位置に2席用意してあります。
8. 試合時の服装で、色付き着衣を使用する場合は（公財）日本バドミントン協会の審査合格品とし、上着の背面には都道府県名を明記してください。なお、日本リーグ、全日本実業団大会、全日本レディース大会及び全日本教職員大会に使用したのも可とします。
9. 試合中のケガや病気の場合は、主審の判断によってレフェリーを呼び、レフェリーが医療役員やその他の人をコートに呼ぶ必要があるかどうかの判断を下します。なお、試合中のケガや病気の応急処置は主催者側で行いますが、その後の処置については各自の責任で行ってください。
10. 準決勝、決勝戦を除き、本大会の主審と一部線審は、埼玉県バドミントン協会が行いますが、敗者は次の試合の線審となります。試合終了後、敗者の方はそのコートで待機してください。競技最終日（準決勝、決勝）の審判は、全て埼玉県バドミントン協会で行います。
11. 審判構成は、主審、線審2名で、サービスジャッジは原則として配置しません。ただし、準決勝、決勝は、主審、線審4名で行います。